

頬ほにつたふ  
(石川啄木いしかわたくぼく)

**通釈** 一握の砂には「東海の小島の磯の」を冒頭に掲げ十首の「海」に関する歌を続けて掲載しています。一連の砂浜を詠った歌の中の一首ですから、舞台は函館の大森浜ではないかとそうぞうする。

頬ほにつたふ  
涙なみだのごはず  
一握いちあくの

**語釈** ※のごはずぬぐ拭わず。※一握いちあく一握りひとにぎ。※人ひと橘智恵子ではなかるうか。

砂すなを  
示しめしし  
人ひとを  
忘わすれず

**通釈** 頬に伝わる涙をぬぐうこともせず、一握りの砂を示してくれた人のことを忘れることはない。